

七七六年(宝亀七年)

渤海使蒙都一八七人の内、遭難をまぬがれ着岸した四十六人を越前加賀郡に安置する。

八〇四年(延暦二三年)

勅して、能登国に渤海使の客院を作らせる。

八一〇年(大同五年)

越前国に留まる渤海使首領高多佛を越中国に安置し史生・修語生等に渤海語を習わせる。

八一五年(弘仁九年)

越前国に命じて渤海使王孝廉等帰国のため大船を選ばせる。

八二三年(弘仁十四年)

大雪のため、存問使派遣を止め、越前加賀守紀末成に存問させる。

八二六年(天長三年)

渤海使高承祖、帰国のため加賀国に向かう。

八五九年(貞観一年)

領渤海客使、安部清行・刈田安雄存問使を兼ね加賀国に向かう。

また越前権少縁、島田忠臣。渤海副使、周元伯と詩文を唱和するた
めに、加賀援と称し加賀国に向かう。

しかし大喪と飢饉のため、渤海使・烏孝慎に入京を許さず
帰国させる。

八七一年(貞観十三年)

渤海使・楊成規加賀国に到着。

八八二年(元慶六年)

加賀国、渤海使が到着したことを言上する。

これに対し加賀国に安置させ、私貿易を禁止する。

八八三年(元慶七年)